様式第２号の１－①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

| | |
|---|---|
| 学校名 | 新潟県立大学 |
| 設置者名 | 公立大学法人新潟県立大学 |

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

| 学部名 | 学科名 | 夜間・通信制の場合 | 実務経験のある教員等による授業科目の単位数 | | | | 省令で定める基準単位数 | 配置困難 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 全学共通科目 | 学部等共通科目 | 専門科目 | 合計 | | |
| 国際地域学部 | 国際地域学科 | 夜・通信 | | | 23 | 23 | 13 | |
| 人間生活学部 | 子ども学科 | 夜・通信 | | | 17 | 17 | 13 | |
| 人間生活学部 | 健康栄養学科 | 夜・通信 | | | 14 | 14 | 13 | |
| 国際経済学部 | 国際経済学科 | 夜・通信 | | | 14 | 14 | 13 | |
| （備考） | | | | | | | | |

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

・シラバス検索画面の「実務経験区分」にチェックを入れて検索
https://ginkgo.unii.ac.jp/campusweb/slbssrch.do
・ウェブサイトに一覧表（PDF）を掲載
https://www.unii.ac.jp/overview/educational-information/expense/

３．要件を満たすことが困難である学部等

| 学部等名 |
|---|
| （困難である理由） |

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

| | |
|---|---|
| 学校名 | 新潟県立大学 |
| 設置者名 | 公立大学法人新潟県立大学 |

１．理事（役員）名簿の公表方法

https://www.unii.ac.jp/overview/organization-management/

２．学外者である理事の一覧表

| 常勤・非常勤の別 | 前職又は現職 | 任期 | 担当する職務内容や期待する役割 |
|---|---|---|---|
| 非常勤 | 元町長 | 2025.4.1～2027.3.31 | 法人運営に関するチェック機能 |
| 非常勤 | 元町長 | 2025.4.1～2027.3.31 | 法人運営に関するチェック機能 |
| 非常勤 | 前大学理事・副学長 | 2025.4.1～2027.3.31 | 法人運営に関するチェック機能 |
| （備考） | | | |

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

| | |
|---|---|
| 学校名 | 新潟県立大学 |
| 設置者名 | 公立大学法人新潟県立大学 |

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要）

○授業計画書（シラバス）の作成過程

10 月～11 月　シラバス記載項目の確認
１月　シラバス執筆依頼
２月末まで　シラバス執筆期間
３月末まで　事務局において公開準備
４月初め　シラバス公開

ホームページにおいてシラバスを公開している。

| | |
|---|---|
| 授業計画書の公表方法 | https://ginkgo.unii.ac.jp/campusweb/slbssrch.do |

２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

○成績評価基準

教育の質を保証する観点から、国際的に通用し、公平性・透明性に優れた基準であるグレードポイント（GP）を全学的に導入している。

| 成績評価 | | 成　　績 | 合否 | GP |
|---|---|---|---|---|
| A | 秀 | 90 点以上 | 合格 | 4.0 |
| B | 優 | 80 点以上 90 点未満 | | 3.0 |
| C | 良 | 70 点以上 80 点未満 | | 2.0 |
| D | 可 | 60 点以上 70 点未満 | | 1.0 |
| F | 不可 | 60 点未満 | 不合格 | 0 |
| X | 資格喪失 | 受験資格の喪失（出席数不足等） | | 0 |
| T | 認定 | 認定単位（他大学等の単位互換科目） | 合格 | 算定対象外 |

授業科目を履修した者に対して、シラバスに記載した担当教員の授業方針・評価方法に基づき、平素の学修状況、試験、レポート、発表、討議により目標達成率を評価し、GP によって客観的に示す。

<table>
<tr><td colspan="2">３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</td></tr>
<tr><td colspan="2">（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）<br>教育の質を保証する観点から、国際的に通用し、公平性・透明性に優れた Grade Point Average 制度（GPA）を全学的に導入している。<br>〇GPA 算出方法<br>GPA=（履修した授業科目の単位数×GP）の合計/履修単位数の合計<br>学期が終わると全学生の GPA を確認し分布状況を把握するとともに、成績通知書を保証人あて通知する。また、GPA の低かった学生に対して、学修指導を行っている。</td></tr>
<tr><td>客観的な指標の<br>算出方法の公表方法</td><td>学生便覧 P22～23<br>https://www.unii.ac.jp/overview/educational-information/evaluation-standard/</td></tr>
<tr><td colspan="2">４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</td></tr>
</table>

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

新潟県立大学は、国際性の涵養、地域性の重視、人間性の涵養を大学の基本理念とし、グローバルな視点から地域づくりを担う中核的な人材を育成することを目的とします。また、新潟から世界に向けて交流の輪を広げ、情報発信するとともに、教育研究の成果を地域に還元して、持続的な地域の発展と共生社会の実現に貢献する大学を目指します。

国際地域学部では、「国際」と「地域」の視点から教育・研究を行い、国際的に活躍でき、地域のグローバル化に対応して地域づくりを担う人材を育成します。人間生活学部では、「人間」と「生活」の視点から教育・研究を行い、少子高齢化が進む地域社会に対応し、魅力ある地域社会を実現することができる人材を育成します。国際経済学部では、「国際」と「経済」の視点から教育・研究を行い、国際的視野から経済・産業・企業の仕組みを理解する専門知識を有し、情報分析力、確かな語学力・国際コミュニケーション力を有する人材を育成します。

この目標を達成するために、それぞれの学部における教育理念や目的に沿った指導を受け、所定の期間在学して所定の単位を修得した学生に学位を授与します。また、全ての学生が（知識・理解）（技能）（実践的姿勢）（統合的な学習経験と創造的思考力）の領域で以下の具体的な学修成果を修めることを目指します。

知識・理解

（１）　文化、社会、または、自然に関する知識を獲得し、理解する。

（２）　新潟県の文化的または社会的な特徴を理解する。

（３）　専攻する学問分野における知識を体系的に獲得し、理解する。

基本的技能・態度

（１）　健全で豊かな社会生活を行うための素養・態度を身につける。

（２）　他者と協働して活動できる素養・態度を身につける。

（３）　専門的分野の活動に必要な技能・態度を身につける。

コミュニケーション能力

（１）　行った活動の成果を適切に表現できる。

（２）　他者が表現した内容について適切に評価し、建設的に意見を交換できる。

（３）　外国語でも情報収集・表現・意見交換できる。

総合的活用力

知識や情報、技能などを総合的に活用し、専門分野の活動に活かすことができる。

注：ここでの活動とは、学習活動、研究活動、社会活動、専門技能の実践活動などを含む、幅広い活動を意味する。

卒業認定方法

各学科の教務委員が卒業に必要な単位を修得しているか確認し、卒業判定に必要な資料を作成する。その資料をもとに、教授会で卒業判定を行い、学長の承認をもって卒業の認定となる。

| | |
|---|---|
| 卒業の認定に関する方針の公表方法 | https://www.unii.ac.jp/overview/policy/diploma-policy/ |

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

| | |
|---|---|
| 学校名 | 新潟県立大学 |
| 設置者名 | 公立大学法人新潟県立大学 |

１．財務諸表等

| 財務諸表等 | 公表方法 |
|---|---|
| 貸借対照表 | https://www.unii.ac.jp/overview/public/legal/ |
| 収支計算書又は損益計算書 | https://www.unii.ac.jp/overview/public/legal/ |
| 財産目録 | － |
| 事業報告書 | https://www.unii.ac.jp/overview/public/legal/ |
| 監事による監査報告（書） | https://www.unii.ac.jp/overview/public/legal/ |

２．事業計画（任意記載事項）

| | |
|---|---|
| 単年度計画（名称　　対象年度：　　） | |
| 公表方法： | |
| 中長期計画（名称：中期計画　　対象年度：令和３年度～令和８年度　） | |
| 公表方法：https://www.unii.ac.jp/overview/public/legal/ | |

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

| |
|---|
| 公表方法：https://www.unii.ac.jp/overview/public/legal/ |

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

| |
|---|
| 公表方法：https://www.unii.ac.jp/overview/public/legal/ |

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

| |
|---|
| 学部等名　国際地域学部 |
| 教育研究上の目的（公表方法：https://www.unii.ac.jp/overview/educational-information/purpose/system/） |
| （概要）<br>今日の知識や情報の量が飛躍的に増え、急速に変化する現代社会では、社会の変化に主体的に対応できる幅広い視野と総合的な判断力、豊かな創造性を兼ね備えた人材が求められています。このような社会的要請に応えるため、国際地域学部は、知識･技能・態度等を総合的に活かし、知的な行動力でグローバルそしてローカルなコミュニティーに貢献できる人材を育成することを目標とします。<br><br>地方都市である新潟県の地域性を考慮し、具体的には以下の人材を育成します。<br>･グローバルな社会で活躍するため、読み、書き、聞き、話すことができる日本語と英語のコミュニケーション・スキルを有し、わが国の文化を世界へ発信することができる人材<br>・豊かな人間性に裏打ちされた専門知識と技能を身につけ、専門学問領域を体系的に理解し、地域社会に貢献できる行動力のある人材<br>・多様化・複雑化した現代社会の変化に対応でき、総合的に調整できる能力を持つ人材<br>・グローバル化による国際社会の変容を政治、経済、文化、地球、地域環境の観点から総合的に考察でき、情報の収集や交渉、調整する行動力と課題について深く物事を考え抜く力をもって、地域づくりに貢献できる人材 |
| 卒業の認定に関する方針<br>（公表方法：https://www.unii.ac.jp/overview/policy/diploma-policy/） |
| （概要）<br>国際地域学部は、グローバル化の進行が国際社会のみならず地域社会にも影響を与える中、国際的に活躍でき、地域のグローバル化に対応して地域づくりを担う人材を育成することを目指します。そのために本学科では、従来別個のものとして行われてきた「国際研究」と「地域研究」を融合した「国際地域学」を探究し、グローバルな視野をもってローカルな課題に取り組む学生を育てます。<br>所定の単位を修得し、以下に示す４つの「知・力」を身につけた者に、学士（国際地域学）を授与します。<br><br>知識・理解<br>１文化、社会、自然などに関して各自が選択した分野の知識を獲得し、理解する。<br>２新潟県の特徴に関して各自が選択した分野の知識を獲得し、理解する。<br>３(1)国際地域学を学ぶための基礎となる知識を獲得し、理解する。<br>(2)国際地域学の研究に必要な専門知識を獲得し、理解する。<br><br>基本的技能・態度<br>１文学や芸術、体育、社会貢献活動、異文化交流などの体験・学習を通して、自らの社会生活を豊かにするための素養・態度を養う。<br>２グループの一員として主体的・協調的に課題に取り組む態度を身につける。<br>３国際地域学に関連する学問的・実践的課題の解決に必要な知識や情報を収集・整理・ |

分析する能力を身につける。

コミュニケーション能力
１国際地域学に関連する知識や情報の収集・整理・分析の過程や結果をまとめてスライドや資料、レポート、論文などにまとめ、論理的に解りやすく表現する能力を身につける。
２国際地域学に関連してまとめられたスライドや資料、レポート、論文などの内容について意見交換し、互いに内容の理解を深め、改善に役立つ意見を交換する能力や態度を養う。
３外国語での会話や、資料の読解、文章表現を行う基礎的・発展的な能力を身につける。

総合的活用力
国際地域学に関連する知識や理解、基本的技能、コミュニケーション能力を総合的に活用して研究が行える。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.unii.ac.jp/overview/policy/curriculum-policy/）

（概要）
国際地域学部では、グローバル化の進行が国際社会のみならず地域社会にも影響を与える中、国際的に活躍でき、地域のグローバル化に対応して地域づくりを担う人材を育成することを目指します。そのために本学科では、従来別個のものとして行われてきた「国際研究」と「地域研究」を融合した「国際地域学」を探求し、グローバルな視野をもってローカルな課題に取り組む学生を育てます。
国際地域学部のカリキュラムは、国際性の涵養、地域性の重視、人間性の涵養という新潟県立大学の理念に基づいて設定された基盤科目と、学部・学科の目的に基づいて設定された展開科目及び卒業研究からなっています。

１高い語学活用能力を育む外国語科目・海外研修科目
高い語学活用能力を育むため、基盤科目の外国語科目群に、グローバルな環境で英語が使える学生の育成を目標とする英語教育プログラム「ACE（Academic Communicative English)」、ロシア語・中国語・韓国語を導入し教養的に学ぶ「露中韓（共通)」、海外英語研修や海外実地研修を含む「海外研修」の科目群を配置します。また、展開科目の露中韓コース科目にロシア語・中国語・韓国語を集中的に学ぶための外国語科目と研修科目を配置します。

２グローバルな視野と豊かな教養を身に付ける基盤科目
基盤科目には、「外国語」と「海外研修」の科目群のほかに、情報リテラシーや体育などからなる「基本技能」、現代人に必要な豊かな教養を身につける「現代教養」の科目群からなっています。「現代教養」は「新潟学」「歴史と文化」「人間社会と科学」「社会と経済の仕組み」の科目群からなり、グローバルな視野をもって新潟の課題を考え、人間や社会・科学について理解を深め、主体的に行動できる資質・能力を培います。

３学問的基盤と学際的視野を持ち国際貢献・地域貢献ができる人材を育む展開科目
展開科目は学部共通の科目とコース科目からなっています。学部共通の科目は、国際地域学部の共通のベースをつくると同時に、以下の各コースへの橋渡しとなる科目で、「導入科目」「特殊講義」「フィールドワーク」「情報発展」の科目群があります。１年次終了時に２年次から所属するコースを一つ選択します。２年次以降は学部共通に学んだ基礎の上に、以下のそれぞれのコースの教育目標に沿って専門的科目を学修し

ます。
・国際関係コース：政治・経済の視点から現代社会が直面する諸課題を検討し、国際社会の平和と発展のために貢献できる人材を育成します。
・比較文化コース：異なる文化や言語の比較・探求を通して、地域の国際化や国際交流に貢献できる人材を育成します。
・露中韓コース：ロシア、中国、韓国のいずれかの言語を習得し、文化や社会を理解することによって、国際交流の中核となる人材を育成します。

４年次に、本学科での学修・研究成果のまとめとして卒業研究を行います。さらに、「国際」と「地域」に関わる専門的学修を基礎に、中等教育の教員としての十分な知識・技能と高い語学能力をもつ教員を育てるため、中学校・高等学校教諭一種免許状（英語）を取得できる科目を設置します。

国際地域学部のディプロマ・ポリシーで設定した身につけるべき４つの「知・力」を獲得できるように、下記の方針によってカリキュラムポリシーを設定します。

〈知識・理解〉
１基盤科目に文化、社会、または自然に関する幅広い分野の科目を配置する。
２新潟学に新潟県の特徴に関する幅広い分野の科目を配置する。
３(1)展開科目に国際地域学を学修するための基礎となる学部共通の科目を配置する。
(2)展開科目にコースごとの教育目標に沿って学修する専門的科目をコース科目として配置する。

〈基本的技能・態度〉
１基盤科目に、文学や芸術、体育、社会貢献活動、異文化交流などについて体験、学習できる科目を配置する。
２(1)基盤科目と展開科目にグループや集団で課題に取り組む科目を配置する。
(2)基盤科目と展開科目に学外で社会の一員として行動する海外研修やフィールドワークなどの実習科目を配置する。
３基盤科目に情報収集や分析の基礎となる科目を選択できるように配置し、展開科目に国際地域学に関連する学術的・実践的課題の解決に必要な知識や情報を収集・整理・分析するための演習や実習を含む科目を配置する。

〈コミュニケーション能力〉
１基盤科目に情報の収集、整理、分析、発信に必要な基本的技能を修得できる科目を選択できるように配置し、展開科目に学修の成果をスライドや資料、レポート、論文などにまとめて発表する科目を配置する。
２基盤科目と展開科目に、スライドや資料、レポート、論文などの内容をディスカッションし、学修の成果や理解を互いにブラッシュアップする科目を配置する。
３基盤科目と展開科目に外国語科目を配置し、展開科目に英語で国際地域学について専門的に学ぶ科目を配置する。

〈総合的活用力〉
国際地域学に関連する知識や理解、基本的技能、コミュニケーション能力を総合的に活用して研究を行い、発表・討論する科目として、卒業研究を配置する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.unii.ac.jp/overview/policy/admission-policy/）

（１） 教育内容・特色
国際地域学部では、外国語の高い運用能力の習得と、国際関係と地域の文化・社会の複合的な学修をとおして、「国際と地域」の諸課題に対応できる人材を育成します。

（２） 国際地域学部が求める学生像
英語の高いスキルを習得する意欲と、そのための十分な基礎的能力を持ち、さらに以下のいずれか一つまたは複数を志向する人を求めます。
・現代世界が直面する諸課題について主体的に学ぶこと。
・異なる文化や言語について比較・探求すること。
・ロシア・中国・韓国のいずれかの言語を習得し文化や社会を理解すること。
上記に加えて、以下のことを志向する人も求めています。
・中学校・高等学校教諭一種免許状（英語）の取得をめざすこと。
・海外留学、国際交流、地域のボランティア活動などに積極的に参加すること。

（３） 大学入学までに身につけておくことが望ましい知識・能力・態度
高等学校における学力の三要素、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」に関して、以下の点を次項に掲げる方法で確認・評価します。

・基礎的な知識・技能
英語４技能「聞く・話す・読む・書く」をバランスよく習得していること。入学時にＣＥＦＲ（ヨーロッパ共通参照枠）Ｂ１レベル（「自立した言語使用者」のレベル、英検２級程度）以上の英語運用能力を有していること。
・思考力・判断力・表現力
現代社会の課題や多様な文化に対する関心と洞察力を有し、自分の考えを論理的にまとめて、わかりやすく表現できること。
・主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
国際社会の平和と発展、多文化共生社会の実現、などのために貢献する意欲を有し、それに向かって幅広い知識を身につけたり活動に参加したりするなど、自ら進んで積極的に学んでいること。

（４） 選抜の基本方針
【学校推薦型選抜】
小論文、面接及び調査書等の内容を総合的に用いて、本学部で学ぶための基礎となる「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」を評価します。小論文では特に「問題理解力」「文章構成力」「論理的思考力」等を評価します。

【特別選抜】（海外帰国生特別選抜）
書類審査、面接及び筆記試験の内容を総合的に用いて、本学部で学ぶための基礎となる「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」を評価します。試験は日本語と英語で行い、それぞれの言語における「理解力」「論理的思考力」「文章構成力」「表現力」等を評価します。

【特別選抜】（外国人留学生特別選抜）
書類審査、面接及び筆記試験の内容を総合的に用いて、本学部で学ぶための基礎となる「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」を評価します。試験は日本語と英語で行い、それぞれの言語における「理解力」「論理的思考力」「文章構成力」「表現力」等を評価します。

【一般選抜Ａ日程】
大学入学共通テストにおいては３教科３科目を課し、本学部で学ぶための基礎となる「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」を評価します。個別学力検査では英語を課し、主に「思考力・判断力・表現力」に関わる「読解力」「表現力」を評価します。また、調査書により主に「主体性・協働性」を評価します。

【一般選抜Ｂ日程】
大学入学共通テストにおいては５教科５科目を課し、本学部で学ぶための基礎となる「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」を評価します。個別学力検査では英語を課し、主に「思考力・判断力・表現力」に関わる「読解力」「表現力」を評価します。また、調査書により主に「主体性・協働性」を評価します。

【一般選抜Ｃ日程】
大学入学共通テストにおいては英語（リスニングを含む）および国語を課し、本学部で学ぶための基礎となる「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」を評価します。個別学力検査では小論文を課し、主に「思考力・判断力・表現力」に関わる「問題理解力」「文章構成力」「論理的思考力」等を評価します。また、調査書により主に「主体性・協働性」を評価します。

| 学部等名　人間生活学部 |
| --- |
| 教育研究上の目的（公表方法：https://www.unii.ac.jp/overview/educational-information/purpose/system/） |
| （概要）<br>　人間生活学部は、グローバル化の進む地域の中で、「育」と「食」を中心に、持続的な地域社会の発展と共生社会の実現に貢献できる人材を育成することを目指します。<br><br>子ども学科<br>子ども学科では、社会の『対人支援』の多様な分野で中核となる人材を育成します。子ども・家庭・地域支援の人材育成を目指し、地域で暮らす人のウェルビーングに貢献し、地域の抱える問題に対応する専門的知見を深く探求します。<br><br>健康栄養学科<br>健康栄養学科では、深い人間理解と生活関連分野を含む幅広い教養に基づき、栄養・食環境をめぐる国際化・高度化・複雑化する現状と社会的ニーズに適切にできる総合的な「食」の専門家を養成します。 |
| 卒業の認定に関する方針<br>（公表方法：https://www.unii.ac.jp/overview/policy/diploma-policy/） |
| （概要）<br>　人間生活学部子ども学科<br>　社会の『対人支援』の多様な分野で中核となる人材を育成します。子ども学科では、子ども・家庭・地域支援の人材育成を目指し、地域で暮らす人のウェルビーイングに貢献し、地域の抱える問題に対応する専門的知見を深く探究します。<br>　具体的には、全学ディプロマ・ポリシーを踏まえ、以下に示す４つの知・力の育成を目指し、そのような資質・能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した者に、学士（子ども学）を授与します。<br>知識・理解<br>１文化、社会、自然などに関して各自が選択した分野の知識を獲得し、理解する。<br>２新潟県の特徴に関して各自が選択した分野の知識を獲得し、理解する。<br>３(1)教育・保育・福祉を学ぶための基礎となる知識を獲得し、理解する。<br>　(2)教育・保育・福祉の専門家として活動するために必要な専門的知識を獲得し、理解する。<br><br>基本的技能・態度<br>１文学や芸術、体育、社会貢献活動、異文化交流などの体験・学習を通して、自らの社会生活を豊かにするための素養･態度を養う。<br>２(1)グループの一員として主体的・協調的に課題に取り組む態度を身につける。<br>　(2)社会の中でルールや規範を尊重して活動する素養や態度を身につける。<br>３教育・保育・福祉に関連する学問的・実践的課題の解決に必要な知識や情報を収集・整理・分析・活用する能力を身につける。<br><br>コミュケーション能力<br>１教育・保育・福祉に関連する知識や情報の収集・整理・分析の過程や結果をまとめてスライドや資料、レポート、論文などにまとめ、論理的に解りやすく表現する能力を身につける。<br>２教育・保育・福祉に関連してまとめられたスライドや資料、レポート、論文などの内容について意見を交換し、互いに内容の理解を深め、改善に役立つ意見を交換する能力や態 |

度を養う。
３外国語での会話や、資料の読解、文章表現を行う基礎的な能力を身につける。

総合的活用力
教育・保育・福祉に関連する知識や理解、基本的技能、コミュニケーション能力を総合的・実践的に研究・活用できる。

人間生活学部健康栄養学科
　食事指導や疾病予防、高齢者等への栄養指導について、国際化、高度化、複雑化する現状に適切に対応でき、総合的な食育活動の中核を担える資質・能力及び健康をサポートできる食の専門家としての資質・能力を身につけるために所定の単位を修得し、４つの知・力を身につけた者に、学士（栄養学）を授与します。

知識・理解
１文化、社会、自然などに関して各自が選択した分野の知識を獲得し、理解する。
２新潟県の特徴に関して各自が選択した分野の知識を獲得し、理解する。
３(1)栄養学を学ぶための基礎となる知識を獲得し、理解する。
　(2)栄養学の専門家として活動するために必要な専門知識を獲得し、理解する。

基本的技能・態度
1 文学や芸術、体育、社会貢献活動、異文化交流などの体験・学習を通して、自らの社会生活を豊かにするための素養・態度を養う。
２(1)グループの一員として主体的・協調的に課題に取り組む態度を身につける。
　(2)社会の中でルールや規範を尊重して活動する素養や態度を身につける。
３栄養学に関連する学問的・実践的課題の解決に必要な知識や情報を収集・整理・分析し、活動に活かす能力を身につける。

コミュニケーション能力
１栄養学に関連する知識や情報の収集・整理・分析の過程や結果をまとめてスライドや資料、レポート、論文などにまとめ、論理的に解りやすく表現する能力を身につける。
２栄養学に関連してまとめられたスライドや資料、レポート、論文などの内容について意見を交換し、互いに内容の理解を深め、改善に役立つ意見を交換する能力や態度を養う。
３外国語での会話や、資料の読解、文章表現を行う基礎的な能力を身につける。

総合的活用力
　栄養学に関連する知識や理解、基本的技能、コミュニケーション能力を総合的に活かし、実践的な活動や研究が行える。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.unii.ac.jp/overview/policy/curriculum-policy/）

（概要）
　人間生活学部では、グローバル化が進む地域の中で、「育」と「食」を中心に持続的な地域社会の発展と共生社会の実現に貢献できる人材を育成することを目指します。そのため、人間生活学部のカリキュラムは、国際性の涵養、地域性の重視、人間性の涵養という新潟県立大学の理念に基づいて設置された基盤科目と、学部・学科の目的に基づいて編成された展開科目及び卒業研究からなっています。展開科目は、学部共通科目と各学科の専門科目から編成されています。

１グローバルな視野と豊かな教養を身につける基盤科目

基盤科目は、国際共通語である英語の活用能力を身につける「外国語」、情報リテラシーや体育などからなる「基本技能」、現代人として必要な豊かな教養を身につける「現代教養」からなっています。「外国語」の中には海外英語研修や海外実施研修も用意されています。「現代教養」は、「新潟学」「歴史と文化」「人間社会と科学」「社会と経済の仕組み」の科目群からなり、グローバルな視野をもって新潟の課題を考え、人間や社会についての理解を深め、主体的に行動できる資質・能力を培います。

２学部が目指す人間として必要な基本的知識を学ぶ学部共通科目

学部共通科目では、人間生活学概論をはじめ、豊かなヒューマンライフを創造するための基本を学びます。同時に、人間の心理、生活と福祉、食や健康などに関する科目を学ぶことによって、学部が目指す人間としての基本的知識を身につけます。子ども学科の学生は健康栄養科目群から学ぶことによって、食生活や健康などについて基本的知識を持つ子ども・家庭・地域支援の中核的人材の育成を目指します。健康栄養学科の学生は子ども科目群から学ぶことによって、教育･保育･福祉について基本的知識を身につけた栄養学の専門家の養成を目指します。

３各学科の理念や目的に基づいて設置された専門科目

各学科の専門科目は免許・資格の取得を十分考慮し、それぞれの学科のディプロマ・ポリシーに基づいて設置されています。「育」をキーワードとする子ども学科では、幼稚園教諭一種免許状、保育士資格、社会福祉士受験資格の取得を可能とする科目を設置します。「食」をキーワードとする健康栄養学科では、管理栄養士の資格を取得するための科目を必修とし、さらに栄養教諭一種免許状を取得できる科目を設置します。

子ども学科

子ども学科では、子ども・家庭・地域を取り巻く「垣根のない課題」に対応できるよう、「対人支援」に関する専門分野・科目を体系的に配置し、専門的知識の修得と探究を目指します。「対人支援」という枠組みでの学問の体系化を図り、学術的知識に基づいてこれらの課題に取り組むことによって、子どもを育み、人や地域を支える「中核的人材」の育成を図ります。具体的にはディプロマ・ポリシーで設定した身につけるべき４つの知・力を獲得できるように、下記の方針によってカリキュラムを設定します。

〈知識・理解〉

１基盤科目に文化、社会、または自然に関する幅広い分野の科目を配置する。

２新潟学に新潟県の特徴に関する幅広い分野の科目を配置する。

３(1)展開科目に「人間生活」全般を学修するための基礎となる学部共通の科目を配置する。

(2)展開科目・教育・保育・福祉を学修するための専門的知識を得る科目を配置する。

〈基本的技能・態度〉

１基盤科目に、文学や芸術、体育、社会貢献活動、異文化交流などについて体験・学習できる科目を配置する。

２(1)基盤科目と展開科目に学外で社会の一員として行動する実習科目を配置する。

(2)展開科目にグループや集団で課題解決に取り組む科目を配置する。

３基盤科目に情報収集、整理の基礎となる科目を選択できるように配置し、展開科目に教育・保育・福祉に関する学術的・実践的課題の解決に必要な知識や情報を収集・整理・活用するための演習や実験・実習を含む科目を配置する。

〈コミュニケーション能力〉

１基盤科目には情報発信に必要な基本的技能を修得する科目を選択できるように配置

し、展開科目に演習・実習の過程や結果をスライドや資料、レポート、論文などにまとめて発表する科目を配置する。
２展開科目に、スライドや資料、レポート、論文などの内容について発表された内容をディスカッションし、成果や理解を互いにブラッシュアップする科目を配置する。
３基盤科目に外国語の科目、海外研修を配置し、展開科目に英語で教育・保育・福祉に関する情報収集やコミュニケーションを行う科目を配置する。また、海外留学が可能な期間を設定する。

総合的活用力
教育・保育・福祉に関する知識や理解、基本的技能・態度、コミュニケーション能力を総合的に活用して研究を行い、発表・討論する科目として、卒業研究を配置する。

健康栄養学科
　健康栄養学科では、深い人間理解と生活関連分野を含む幅広い教養に基づき、栄養、食環境をめぐる国際化・高度化・複雑化する現状と社会的ニーズに適切に対応できる総合的な「食」の専門家を養成することを基本理念とします。具体的にはディプロマ・ポリシーで設定した身につけるべき４つの知・力を獲得できるように、下記の方針によってカリキュラムを設定します。なお、管理栄養士養成課程として必要な科目は全て必須として配置します。

〈知識・理解〉
１基盤科目に文化、社会、または自然に関する幅広い分野の科目を配置する。
２新潟学に新潟県の特徴に関する幅広い分野の科目を配置する。
３(1)展開科目に「人間生活」全般を学修するための基礎となる学部共通の科目を配置する。
(2)展開科目・専門基礎分野に栄養学を学修するための基礎知識を得る科目を配置する。
(3)展開科目・専門分野に、栄養学や給食経営管理学に関する専門的知識を得る科目を配置する。

〈基本的技能・態度〉
１基盤科目に、文学や芸術、体育、社会貢献活動、異文化交流などについて体験・学習できる科目を配置する。
２(1)基盤科目と展開科目に学外での社会の一員として行動する実習科目を配置する。
(2)展開科目にグループや集団で課題解決に取り組む科目を配置する。
３(1)基盤科目に情報収集や分析の基礎となる科目を選択できるように配置し、展開科目に栄養学に関連する学術的・実践的課題の解決に必要な知識や情報を収集・整理・分析するための演習や実験・実習を含む科目を配置する。
(2)展開科目に、実験や研究、実践活動に必要な技術を修得する科目を配置する。

〈コミュニケーション能力〉
１基盤科目には情報発信に必要な基本的技能を修得する科目を選択できるように配置し、展開科目に演習・実験・実習の過程や結果をスライドや資料、レポート、論文などにまとめて発表する科目を配置する。
２展開科目に、スライドや資料、レポート、論文などの内容について発表された内容をディスカッションし、成果や理解を互いにブラッシュアップする科目を配置する。
３基盤科目に外国語の科目、海外研修を配置し、展開科目に英語で栄養学に関する情報収集やコミュニケーションを行う科目を配置する。また、海外研修やインターンシップが可能な期間を設定する。

〈総合的活用力〉
　展開科目に、栄養学に関連する知識や理解、基本的技能・態度、コミュニケーション能力を総合的に活用する科目を配置するとともに、研究を行って発表・討論する科目として卒業研究を配置する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.unii.ac.jp/overview/policy/admission-policy/）

（概要）
人間生活学部は、人間に対する深い理解に基づき、グローバル化の進む地域の中で人々のQOL(Quality of Life)の向上を志向しながら、「育」と「食」を中心に豊かなヒューマンライフを創造し、子どもから高齢者まで生き生きと暮らせる社会の実現に貢献できる人材を育成することを目的としています。人間生活学部では、「育」をキーワードとする子ども学科と、「食」をキーワードとする健康栄養学科からなっており、それぞれの学科の目的を理解し、夢に向かって努力する学生を求めています。

子ども学科
（１）教育内容・特色
　人間に対する深い理解に基づき、子どもの発達とそれを支える教育、生活環境及び社会環境に関して科学的に探究し、実践的・専門的力量を持つ中核的人材を育成します。

（２）子ども学科求める学生像
子ども学科では、次のような学生を求めています。
１．乳幼児期の子どもの育ちや子育て支援に関する基礎的な知識・技能をもつ人
２．子どもや家庭、地域社会、国際社会の様々な課題に関心を持ち、その解決を求める際に必要となる思考力・判断力・表現力をもつ人
３．地域社会並びに国際社会で活躍する教育、保育、社会福祉の専門職者となるため、他者の考え、気持ちを理解し、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度をもつ人

（３）大学入学までに身につけておくことが望ましい知識・能力・態度
高等学校における学力の三要素、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」に関して以下の学力評価を行います。
・基礎的な知識・技能
　・高等学校までの教育課程を介して培われる各教科の基礎的・基本的な知識及び技能
　・教育、保育、社会福祉を学術的に探究するのに必要となる総合的な知識及び技能
・思考力・判断力・表現力
　・情報を適切に読み解き、問題を深く理解する思考力
　・物事を複数の視点から考察し、自ら選択、評価、決定を行う判断力
　・自らの考えを他者に対して論理的かつわかりやすく伝える表現力
・主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
　・専門職者を目指して様々な活動に主体的に取り組むとともに、他者に対して共感性や思いやりの心を持って行動する
　・様々な立場の人々とコミュニケーションをとりながら協働して活動する
　・グローバルな視野と多様な社会や人への関心を持つ

（４）選抜の基本方針
【学校推薦型選抜】
小論文、面接及び出願書類（調査書・志望理由書等）の内容により、本学科で学ぶために

必要な「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」と専門職に求められる適性及び意欲を評価します。

【特別選抜】（海外帰国生特別選抜）
学校推薦型選抜に準じて総合的に判定します。

【特別選抜】（外国人留学生特別選抜）
学校推薦型選抜に準じて総合的に判定します。

【一般選抜Ａ日程】
総合的な学力を活かし、地域社会並びに国際社会で活躍できる力を重視します。大学入学共通テストの国語、英語（リスニングを含む）、数学、理科及び選択科目の５教科により本学科で学ぶために必要な「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価します。面接及び出願書類により「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」と専門職に求められる適性及び意欲を評価します。

【一般選抜Ｂ日程】
様々な課題を思考、読解、分析し、自らの考えを論理的かつ的確に表現できる力を重視します。大学入学共通テストの国語、英語（リスニングを含む）、選択科目の３教科により「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を問うほか、小論文により主に「思考力・判断力・表現力」を評価します。面接・調査書等により「主体性・協働性」と専門職に求められる適性及び意欲を評価します。

【一般選抜Ｃ日程】
語学力を活かし、地域社会並びに国際社会で活躍できる力を重視します。大学入学共通テストの国語、英語（リスニングを含む）、選択科目の３科目により本学科で学ぶために必要な「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価します。面接及び出願書類により、主に「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」と専門職に求められる適性及び意欲を評価します。

健康栄養学科
（１） 教育内容・特色
社会におけるあらゆる人の健康と生活の質の向上に寄与するため、科学的に探究し、実践的・専門的力量を持つリーダーに成長できる管理栄養士を育成します。

（２） 健康栄養学科が求める学生像
健康栄養学科では、次のような学生を求めています。

・栄養学を学び続けるために必要な基礎的な知識・技能を持つ人
・情報の収集・評価・分析・統合と関連付け・発信に必要な、思考力・判断力・表現力をもつ人
・管理栄養士として、地域社会並びに国際社会で食を通して人々の健康や生活の質の向上に貢献したいという意思をもち、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度をもち、課題を発見し、解決できる人

（３） 大学入学までに身につけておくことが望ましい知識・能力・態度
高等学校における学力の三要素、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」に関して以下の学力評価を行います。

・基本的な知識・技能
　・高等学校までの教育課程を介して培われる各教科の基礎的・基本的な知識及び技能
　・栄養学を学術的に探究するのに必要となる知識及び技能
・思考力・判断力・表現力
　・課題は何かを考え、解決しようと深く考える思考力
　・情報を収集し複数の視点から評価・分析し、客観的、的確に決定する判断力
　・自らの判断や考えを他者に対して論理的かつ的確に説明する表現力
・主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
　・管理栄養士として、食を通して社会や人の健康や生活の質の向上に貢献したいという意思
　・様々な立場の人々とコミュニケーションをとりながら協働して活動する
　・グローバルな視野と多様な社会や人への関心を持つ

（４） 選抜の基本方針
【学校推薦型選抜】
化学の試験により栄養学を学ぶうえで必要な「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価します。面接及び出願書類（調査書・志望理由書等）の内容により「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」と管理栄養士に求められる適性及び意欲を評価します。

【特別選抜】（海外帰国生特別選抜）
学校推薦型選抜に準じて総合的に判定します。

【特別選抜】（外国人留学生特別選抜）
学校推薦型選抜に準じて総合的に判定します。

【一般選抜Ａ日程】
栄養学の知識や情報の取得・発信に意欲がある学生を選抜します。
大学入学共通テストの国語、英語（リスニングを含む）、数学、理科の４教科により栄養学を学ぶために必要な「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価します。面接及び出願書類により「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」と管理栄養士に求められる適性及び意欲を評価します。

【一般選抜Ｂ日程】
人々の健康に貢献したいという意欲を持つ多様な学生を選抜します。大学入学共通テストの国語、英語（リスニングを含む）、数学、理科及び選択科目の５教科により栄養学を学ぶために必要な「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価します。面接及び出願書類により「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」と管理栄養士に求められる適性及び意欲を評価します。

【一般選抜Ｃ日程】
先進的な栄養学の知識や情報の取得・発信に意欲がある学生を選抜します。大学入学共通テストの英語（リスニングを含む）及び理科により栄養学を学ぶために必要な「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価します。面接及び出願書類により「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」と管理栄養士に求められる適性及び意欲を評価します。

| 学部等名　国際経済学部 |
| --- |
| 教育研究上の目的（公表方法：https://www.unii.ac.jp/overview/educational-information/purpose/system/） |
| （概要）<br>　国際経済学部では、グローバルな視点と高い専門性を持った国際経済人として活躍する人材に不可欠な実践力を養います。それは大きく３つに分けられます。<br>・最新の経済・産業・企業を理解、分析する能力<br>　貿易や金融を通じたグローバル経済の仕組みを、産業・企業の活動だけでなく、地域経済との繋がりという観点からも理解し、分析する能力を磨きます。<br>・データ・情報を読み解き、分析する力<br>　高度に情報化する社会に対応し、多様な課題の解決に必須の知識として、経済学と関連させた情報・データ分析を基礎から応用まで学びます。<br>・グローバルな活躍を支える確かな語学力<br>　実用的な英語力に加え、ロシア語・中国語・韓国語のいずれかの基礎を身に付けます。さらに海外留学、海外研修、英語による専門科目の講義により、実践的な国際コミュニケーション力を養います。 |
| 卒業の認定に関する方針<br>（公表方法：https://www.unii.ac.jp/overview/policy/diploma-policy/） |
| （概要）<br>　国際経済学部<br>　本学部では、国際的視野から経済・産業・企業の仕組みを理解する専門知識を有し、情報分析力、確かな語学力・国際コミュニケーション力を有する人材を育成することを目的とします。そのために本学部では、「国際経済コース」「地域経済創生コース」の二つのコースを設け、「国際経済コース」では「国際的視野から東アジアをはじめとする国際経済における経済・産業・企業の仕組みを理解する専門知識を有し、グローバル化する経済・産業・企業において主体的に活躍し、役割を担ってゆく上で必要とされる専門知識と応用能力」を有する人材、「地域経済創生コース」では「国際的視野を備えながら地域における経済・産業・企業の仕組みを理解する専門知識を有し、地域の経済・産業・企業の創生と発展に主体的に関わり、役割を担ってゆく上で必要とされる専門知識と応用能力」を有する人材の養成を行います。<br>　本学部では、以下に示す四つの「知・力」を身に付け、かつ所定の単位を修得した者に、学士（経済学）を授与します。<br><br>知識・理解<br>１東アジアをはじめとする国際社会とネットワークを深めつつ新潟の持続的発展を担うことができるように、国際的視野から経済・産業・企業の仕組みを理解するための基礎となる知識を獲得し、理解する。<br>２グローバル化する経済・産業・企業において主体的に活躍し、役割を担ってゆく上で必要とされる専門知識と応用能力又は国際的視野を備えながら地域の経済・産業・企業の創生と発展に主体的に関わり、役割を担ってゆく上で必要とされる専門知識と応用能力を獲得する。<br><br>基本的技能・態度<br>１国際経済や地域経済に関連して、統計データを用いた分析やデータの処理・分析に必要な基礎力を身に付ける。<br>２国際経済や地域経済に関連して、統計データを用いた分析やさまざまな業務におけるデータ処理・分析に必要な実践的な情報分析力を身に付ける。 |

コミュニケーション能力
１国際経済や地域経済に関連する知識や情報を収集・整理・分析した結果をまとめ、それについて論理的にわかりやすく表現する能力や意見交換する能力を身に付ける。
２外国語での会話や資料の読解、文章表現を行う基礎的能力を身に付け、自己を表現し他者と相互に理解する国際コミュニケーション力を身に付ける。

総合的活用力
国際的視野から経済・産業・企業の仕組みを理解する専門的能力、情報分析力、国際コミュニケーション力を総合的・実践的に活用し、主体的に問題点を抽出し答えを探求することができる力を身に付ける。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.unii.ac.jp/overview/policy/curriculum-policy/）

本学の基本理念である「国際性の涵養」「地域性の重視」「人間性の涵養」の下で国際経済学部が育成する人材が身に付ける能力は「国際的視野を備えて、東アジアをはじめとする国際経済・地域における経済・産業・企業の仕組みを理解する力」、「統計データを用いた分析やデータの処理に必要な基礎力を高める実践的な情報分析力」、「英語を実践的に駆使する力と露中韓言語を理解する力」を三つの主要な柱とします。これに対応して、国際経済学部のカリキュラムは、「国際性の涵養」「地域性の重視」「人間性の涵養」という本学の理念に基づいて設定された全学共通の基盤科目及び本学部の学生を対象とする専門科目により構成します。

なお、段階的及び体系的な教育課程を構築するため、すべての開講科目について、ナンバーを施し、100 番台から 400 番台までの４段階の科目を学生の進度に応じて配置します。100 番台は入門科目、200 番台は専門基礎科目、300 番台は専門応用科目という位置付けとします。「専門演習Ⅲ」「専門演習Ⅳ（卒業論文を含む）」は 400 番台の科目として配置します。

１「国際性の涵養」「地域性の重視」「人間性の涵養」という本学の理念に基づく教養教育
幅広い視野と深い教養を修得するとともに本学が位置する新潟への関心と問題意識を促すことを目的として、「新潟学」「歴史と文化」「人間社会と科学」「社会と経済の仕組み」のカテゴリーからなる現代教養科目を配置します。
２「国際的視野を備えて、東アジアをはじめとする国際経済・地域における経済・産業・企業の仕組みを理解する力」及び「統計データを用いた分析やデータの処理に必要な基礎力を高める実践的な情報分析力」を養うための教育
体系的かつ段階的に学力を養うため、「専門的基礎力を高める入門科目（１年次）」、「専門的知識に裏付けられた理解力・応用力を高める専門科目（２～３年次）」、そして、「実践力を習得する専門科目（３～４年次）」を配置します。

(1)「国際的視野から経済・産業・企業の仕組みを理解する基礎的専門能力」及び「基礎的情報分析力」を習得するために「専門的基礎能力を高める入門教育（１年次）」（入門科目 100 番台）を配置します。入門科目は、１）全学共通科目である経済学及び情報・データ分析関連分野の入門科目、２）本学部の学生のみを対象とする同分野の入門科目、３）入門演習により構成されます。入門演習は、アカデミック・リテラシーの基礎」を身に付けるとともに、経済的現象に広く探究心を持ち、大学の教育への興味、関心を高めることを目的とします。

(2)2 年次以降の学生に対して「国際経済コース」と「地域経済創生コース」の二つのコースを設け、専門基礎科目（200 番台）を配置します。学生は２年次当初からいずれかのコースに所属します。「国際経済コース」においては「専門的知識に裏付けられた理解力・応用能力を高める教育」の目的は「東アジアをはじめとする国際経済における経済・産業・企業の仕組みを理解する専門知識を有し、グローバル化する経済・産業・企業において主体的に活躍し、役割を担ってゆく上で必要とされる専門知識と応用能力」の習得、「地域経済創生コース」においては「国際的視野を備えつつ、地域における経済・産業・企業の仕組みを理解する専門知識を有し、地域の経済・産業・企業の創生と発展に主体的に関わり、役割を担ってゆく上で必要とされる専門知識と応用能力」の習得のために、専門科目を両コース共通科目、国際経済コース科目、地域経済創生コースとして配置します。

(3)具体的課題を解明し、主体的に取り組むことのできる実践的専門能力を習得するために、３～４年次向け学生に専門応用科目（300 及び 400 番台）を配置します。「国際経済コース」では東アジアをはじめとする国際経済が直面する具体的課題を取り上げ、「地域経済創生コース」では地域の経済・産業・企業が現実に直面する具体的課題を取り上げた教育を行います。

(4) ３～４年次では、講義科目に加えて専門演習科目を設け、少人数による実践的教育（卒

業論文作成指導を含む）を行います。
(5) ４年次における専門演習及び卒業論文は、ディプロマ・ポリシーで掲げた〈総合的活用力〉「国際的視野を備えた専門的能力、情報分析力、国際コミュニケーション力を総合的・実践的に活用し、主体的に問題点を抽出し答えを探求する力」を養う上で重要な科目とします。

３確かな語学力・国際コミュニケーション力を養うための教育

外国語教育においては、「英語を実践的に駆使する力」を育成し、英語でコミュニケーションを行うことのできる基盤的能力、英語を実践的に駆使する能力の習得を目指すとともに、「露中韓言語を理解する力」として露中韓言語の基礎力と理解力の習得を目指します。

(1)英語教育は、４年間を通して、英語科目、経済学の専門科目、海外の大学と連携した海外研修、交換留学等のプログラムにより行います。
(2)英語科目は、高大接続改革の一環としての入試改革において重視すべきとされた「読む」「聞く」「話す」「書く」の４技能を総合的に伸ばすことを主眼とする一般英語プログラムを１年次に履修することに加え、１年次後期から２年次にかけて（100 番台及び 200 番台科目において）CLIL の手法を用い、英語の読む・聞く・話す・書く基礎的能力を高めるとともに、英語を実践的に駆使する力を養うために、英語教育を専門とする教授陣によるプログラムに基づき集中的英語教育を行います。
(3) ２年次において「CLIL　English」(200 番台)及び本学部学生のみ開講される“English for Economics”等の英語科目（いずれも 200 番台）を配置し、専門能力と実践的な語学力・コミュニケーション力の両面を高める観点から配置される英語による専門科目（主に３年次向け 300 番台）の履修に向けての橋渡しの役割を果たす科目とします。
(4) ２、３年次においては、英語により開講される専門科目を履修することにより、専門知識を踏まえた実践的な英語力、コミュニケーション能力を高めます。
(5)露中韓言語については、２年次（200 番台）において露中韓言語のうち一言語を選択必修とし、各言語の基礎力を養うインテンシブな授業を行います。
(6)露中韓各言語のさらに高度なリテラシー修得のため、３年次の選択科目（300 番台）として、露中韓各言語を使ったインターネット等での情報収集、経済関係のメディア情報及び専門文献の講読等に必要とされるより高度なリテラシー修得を目指す科目を配置します。さらに、会話力向上のための科目を選択科目（300 番台）として配置します。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.unii.ac.jp/overview/policy/admission-policy/）

（概要）

（１）教育内容・特色

国際経済学部は、「国際的視野から経済・産業・企業の仕組みを理解する専門知識を有し、情報分析力、確かな語学力・国際コミュニケーション力を有する人材を育成する」ことを目的とし、専門性の高い能力を有する人材の教育を目指しています。また、質の高い教育を支え、地域や社会ニーズを踏まえた研究活動を推進していきます。

（２）国際経済学部が求める人材像

国際経済学部では、次のような学生を求めています。

入学を期待する人材

・国際経済及び地域経済に関心を有し、専門的能力を高めることに意欲を有する者
・経済を読み解くための情報・データに関心を有し、その分析能力を高めることに意欲を有する者
・国際経済や地域経済に関して学んだ知識や思考力を生かして社会や地域に貢献する意欲を有する者

（３）大学入学までに身に付けておくことが望ましい知識・能力・態度

高等学校における学力の三要素、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」に関して以下の学力評価を行います。

・基本的な知識・技能
　経済学を学ぶために必要な基礎学力として、高等学校等で身に付ける英語、国語、数学の知識。特に英語に関しては、「読む・書く・話す・聞く」の４技能をバランスよく習得し、幅広い基礎学力を身に付けていること。
・思考力・判断力・表現力
　広く経済社会の様々な動きや変化に対する探求心を有し、自らの考えを論理的に表現し、わかりやすく伝えることができること。
・主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
　国際及び地域の経済問題に常に関心を持ち、それらの解決に向けて専門知識・思考方法を自ら活用し、国際社会及び地域社会に積極的に貢献しようという意識を有していること。

（４）選抜の基本方針
【総合型選抜】
面接及び出願書類等（調査書、評価書、志望理由書、各種の高度な資格・技能試験の証明書）の内容により、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」を評価します。

【学校推薦型選抜】
小論文により、主に「思考力・判断力・表現力」を評価します。面接及び出願書類等（調査書、推薦書、志望理由書）の内容により、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」を評価します。

【特別選抜】（海外帰国生特別選抜）
小論文により、主に「思考力・判断力・表現力」を評価します。面接及び出願書類等（成績証明書等、志望理由書、英語外部試験成績証明書）の内容により、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」を評価します。

【特別選抜】（外国人留学生特別選抜）
特別選抜（海外帰国生特別選抜）に準じて総合的に判断します。

【一般選抜Ａ日程】
大学入学共通テストにおいては５教科５科目を課し、主に「知識・技能」を評価します。個別学力検査では英語、数学又は小論文を課し、「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」を評価します。また調査書により、主に「主体性・協働性」を評価します。

【一般選抜Ｂ日程】
大学入学共通テストにおいては３教科３科目を課し、主に「知識・技能」を評価します。個別学力検査では、英語、数学を課し、「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」を評価します。また調査書により、主に「主体性・協働性」を評価します。

【一般選抜Ｃ日程】
大学入学共通テストにおいては英語（リスニングを含む）および数学を課し、主に「知識・技能」を評価します。個別学力検査では、小論文を課し、主に「思考力・判断力・表現力」を評価します。また、調査書により、主に「主体性・協働性」を評価します。

## ②教育研究上の基本組織に関すること

| |
|---|
| 公表方法：公表方法<br>https://www.unii.ac.jp/overview/organization-management/#om |

## ③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a.教員数（本務者）　令和７年度５月１日時点

| 学部等の組織の名称 | 学長・副学長 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| － | 1 人 | － | | | | | 1 人 |
| 国際地域学部国際地域学科 | 1 人 | 19 人 | 8 人 | 6 人 | 1 人 | | 35 人 |
| 人間生活学部子ども学科 | | 9 人 | 4 人 | | | | 13 人 |
| 健康栄養学科 | | 7 人 | 4 人 | 3 人 | 2 人 | | 16 人 |
| 国際経済学部国際経済学科 | 1 人 | 10 人 | 5 人 | 3 人 | | | 19 人 |
| 政策研究センター | | 1 人 | | | | | 1 人 |
| 情報基盤センター | | | | 1 人 | | | 1 人 |
| 附置研究所 | | 4 人 | 2 人 | | | | 6 人 |
| 健康支援センター | | 1 人 | | | | | 1 人 |

b.教員数（兼務者）

| 学長・副学長 | 学長・副学長以外の教員 | 計 |
|---|---|---|
| － | 107 人 | 107 人 |

| | |
|---|---|
| 各教員の有する学位及び業績<br>（教員データベース等） | 公表方法<br>https://www.unii.ac.jp/education-research/database/ |

c.ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

全学的な委員会としてＦＤ委員会を設置し、授業改善のためのアンケート、ＦＤ研修会等を実施している。

## ④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a.入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

| 学部等名 | 入学定員(a) | 入学者数(b) | b/a | 収容定員(c) | 在学生数(d) | d/c | 編入学定員 | 編入学者数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 国際地域学部 | 180 人 | 196 人 | 108.9% | 720 人 | 774 人 | 107.5% | | |
| 人間生活学部 | 90 人 | 92 人 | 102.2% | 360 人 | 377 人 | 104.7% | | |
| 国際経済学部 | 100 人 | 115 人 | 115.0% | 370 人 | 408 人 | 110.3% | | |
| 合計 | 370 人 | 403 人 | 108.9% | 1,450 人 | 1,559 人 | 107.5% | 合計 | 人 |

（備考）令和７年度５月１日時点
※国際経済学部の入学定員は、令和６年度まで 90 人

b.卒業者数、進学者数、就職者数

| 学部等名 | 卒業者数 | 進学者数 | 就職者数<br>（自営業を含む。） | その他 | 進路未決定 |
|---|---|---|---|---|---|
| 国際地域学部 | 203 人<br>(100%) | 6 人<br>(3.0%) | 186 人<br>(91.6%) | 5 人<br>(2.5%) | 6 人<br>(3.0%) |
| 人間生活学部 | 89 人<br>(100%) | 6 人<br>(6.7%) | 82 人<br>(92.1%) | 1 人<br>(1.1%) | 0 人<br>(0%) |
| 国際経済学部 | 89 人<br>(100%) | 1 人<br>(1.1%) | 79 人<br>(88.8%) | 4 人<br>(4.5%) | 5 人<br>(5.6%) |
| 合計 | 381 人<br>(100%) | 13 人<br>(3.4%) | 347 人<br>(91.1%) | 10 人<br>(2.6%) | 11 人<br>(2.9%) |
| （主な進学先・就職先）（任意記載事項） | | | | | |
| （備考）令和７年度５月１日時点 | | | | | |

| c.修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項） | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 学部等名 | 入学者数 | 修業年限期間内<br>卒業・修了者数 | 留年者数 | 中途退学者数 | その他 |
| | 人<br>(100%) | 人<br>(　　%) | 人<br>(　　%) | 人<br>(　　%) | 人<br>(　　%) |
| | 人<br>(100%) | 人<br>(　　%) | 人<br>(　　%) | 人<br>(　　%) | 人<br>(　　%) |
| 合計 | 人<br>(100%) | 人<br>(　　%) | 人<br>(　　%) | 人<br>(　　%) | 人<br>(　　%) |
| （備考） | | | | | |

## ⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）
授業科目について、授業の概要、到達目標、方法及び成績評価の方法についてシラバスを作成し、ホームページにおいて公開している。

## ⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）
授業科目を履修した者に対して、シラバスに記載した担当教員の授業方針・評価方法により、平素の学修状況、試験、レポート、発表、討議により、目標達成率を評価する。

| 学部名 | 学科名 | 卒業に必要となる単位数 | ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項） | 履修単位の登録上限（任意記載事項） |
|---|---|---|---|---|
| 国際地域学部 | 国際地域学科 | 128 単位 | (有)・無 | 48 単位 |
| 人間生活学部 | 子ども学科 | 128 単位 | (有)・無 | 52 単位 |
| | 健康栄養学科 | 128 単位 | (有)・無 | 52 単位 |
| 国際経済学部 | 国際経済学科 | 128 単位 | (有)・無 | 52 単位 |
| ＧＰＡの活用状況（任意記載事項） | | 公表方法：学生便覧Ｐ24　学修指導への活用 | | |
| 学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項） | | 教員養成の状況<br>公表方法：https://www.unii.ac.jp/overview/educational-information/teacher-training/ | | |

## ⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

| |
|---|
| 公表方法：https://www.unii.ac.jp/college-life/campus-map/ |

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

| 学部名 | 学科名 | 授業料<br>（年間） | 入学金 | その他 | 備考<br>（任意記載事項） |
|---|---|---|---|---|---|
| 国際地域学部 | 国際地域学科 | 535,800 円 | 564,000 円<br>新潟県の住民<br>282,000 円 | 円 | |
| 人間生活学部 | 子ども学科 | 535,800 円 | 564,000 円<br>新潟県の住民<br>282,000 円 | 円 | |
| | 健康栄養学科 | 535,800 円 | 564,000 円<br>新潟県の住民<br>282,000 円 | 円 | |
| 国際経済学部 | 国際経済学科 | 535,800 円 | 564,000 円<br>新潟県の住民<br>282,000 円 | 円 | |

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

| |
|---|
| a.学生の修学に係る支援に関する取組 |
| （概要）<br>アドバイザー教員制度を採用し、面談による履修方法、履修科目選択について指導を受けられる体制を整備している。<br>https://www.unii.ac.jp/overview/educational-information/student-support/ |
| b.進路選択に係る支援に関する取組 |
| （概要）<br>アドバイザー教員による相談のほか、キャリア支援センタースタッフによる相談体制を整備している。<br>・インターンシップの実施<br>・就職講座の開催<br>・就職活動支援のための環境整備<br>・企業ファイルの作成等<br>https://www.unii.ac.jp/career-center/outline/ |
| c.学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 |
| （概要）<br>健康支援センターを設置し、けがや体調不良時の看護師による応急処理や医療機関の紹介、医師（学校医）による健康相談のほか、カウンセラー（臨床心理士）によるメンタルヘルス相談など、身体や心の健康に関するアドバイスや感染症等の情報を提供している。<br>https://www.unii.ac.jp/overview/educational-information/student-support/<br>https://www.unii.ac.jp/overview/facilities/kenkoushien/ |

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

| |
|---|
| 公表方法：https://www.unii.ac.jp/news/ |

備考　この用紙の大きさは、日本産業規格Ａ４とする。